阪口（さかぐち）　琢磨（たくま）さん

在籍した時期：小学部 5 年生から中学部 2 年生までの約 3 年間（1990 年～1993 年）
出身大学：東京大学
現在の仕事：2002 年に外務省に入省、現在は内閣官房に出向中。
これまでにメキシコやエジプトなど 4 か国の在外公館での勤務を経験。

Q. 日本語学校はどんな存在でしたか？楽しかった思い出は？

小学校卒業時

初めての海外暮らしで右も左もわからない中、週に 1 回気兼ねなく同級生とコミュニケーションがとれる、ほっとできる場所でした。授業・教材（ベータのビデオ！）・お昼休み・図書室など、楽しい思い出ばかりです。教室めがけて雪合戦して、当時の担任の先生に随分怒られた記憶も…

Q. 日本語学校での経験が役立っていると思うことは？

漠とした形でも国際関係に触れたことは、その後外交の世界に飛び込むきっかけの一つになったと思っています。ワシントン DC エリアで生活したのは約 3 年でしたが、海外生活は就職前も含めれば通算で 12 年を超えました。海外生活で外国語を使うことは大事ですが、実は「伝えたいこと」がないと、どんなこともうまく伝わりません。私の場合、日本語で「伝えたいこと」を一生懸命考える癖を日本語学校での学習を通じて培っていたように思います。

Q. 日本帰国後、進学校に編入されたとうかがいました。在米中はどのように勉強していましたか？

渡米した当初は進学に強い関心はなかったのですが、小 6 の中学受験シーズンに一時帰国する同級生も多く、いい意味で刺激になったと思います。在米中は補習校や現地校の授業で手いっぱいで、受験勉強は帰国してから本番まで 1 か月なかったのですが、日本語学校での経験も踏まえ集中的に勉強した記憶があります。幸い合格できましたが、英語の試験で出てきた「受動態」が“受け身”の意味だと分からず、改めて日本語の難しさ？を痛感しました。

Q. 外交活動におけるご専門やお仕事の魅力は？

日本政府を代表して国連の会合でステートメントを実施

約 20 年間、中南米や中東との外交、安全保障・経済・軍縮などの分野別の業務などに携わってきました。「世界中の人々が笑顔になれるように」というのを自分の究極の目標として日々を過ごしています。国内外のいろいろな人々と会い、意見（時に激論）を交わし、日本と世界の将来を常に考え続けられる、何にも代えがたい仕事です。

Q. 在学中にやっておけばよかったと後悔していることは？

同級生との付き合いをもっと深めておけばよかったと思います。今でも連絡をとっている仲間はいますが、数は限られます。日本に帰国される方も米国に永住される方もいらっしゃるでしょうが、いろいろな意味で濃密な時間を共に過ごす仲間との関係は長く大事にしていただければと思います。

Q. 在校生へのメッセージ

海外での生活は楽しいこと、辛いこと様々にあると思います。その全てが皆さんにとって貴重な財産になります。勉強だけでなく、ぜひ多くのことを学び吸収して、素晴らしい未来に繋げていかれることを願っています。